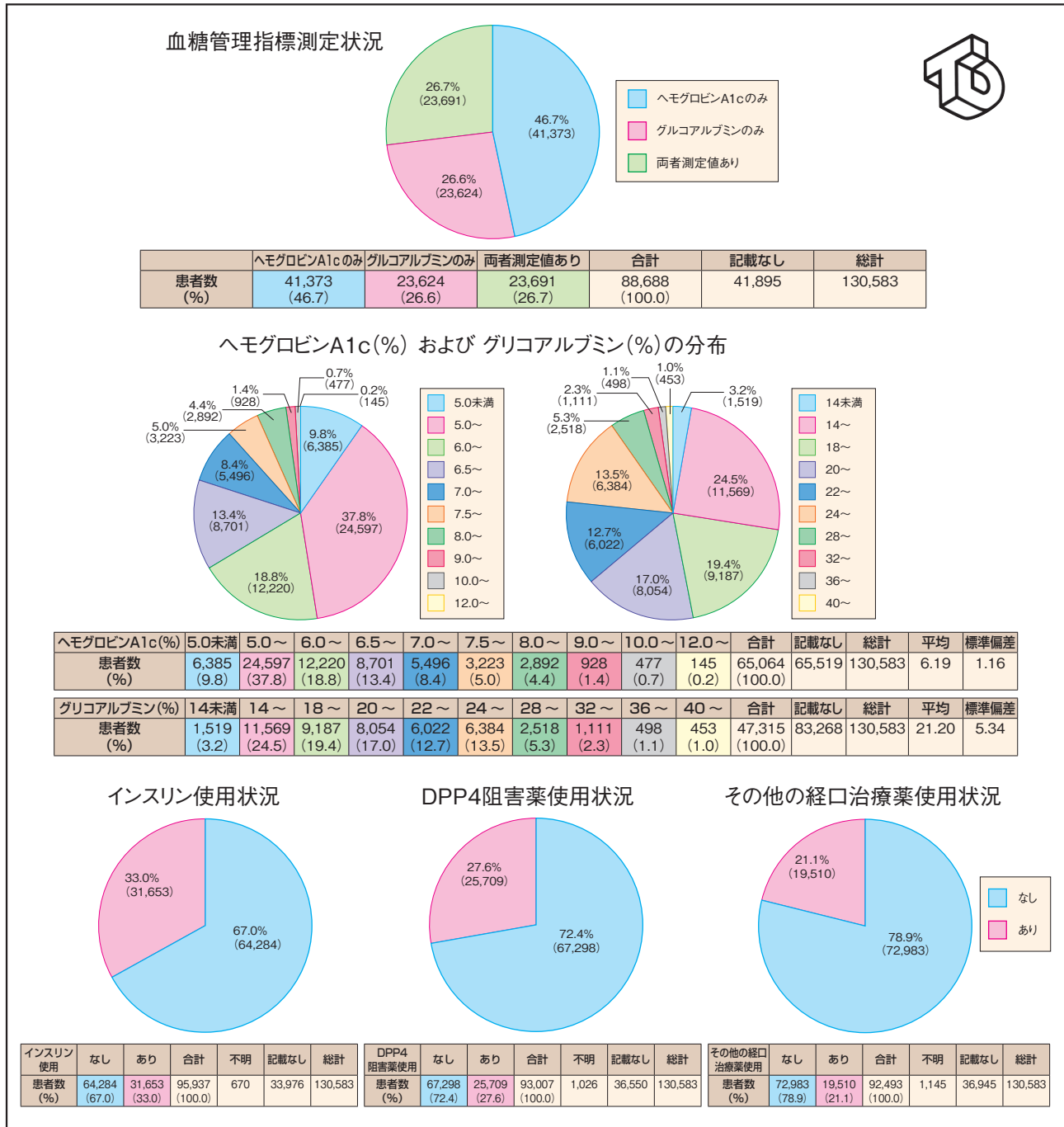


4) 糖尿病調査

(2) 血糖管理指標測定状況と糖尿病治療薬の使用状況 (図表45)



集計対象：糖尿病既往あり患者

解説

日本透析医学会「血液透析患者の糖尿病治療ガイド2012」では、透析患者の血糖管理指標として、ヘモグロビンA1c (HbA1c) ではなくグリコアルブミンが推奨された。ガイドライン発表から約一年が経過した2013年末では、53.3%の患者においてグリコアルブミンの測定が行われていたが、46.7%の患者においては依然としてHbA1c単独による血糖管理の評価が行われていた。

HbA1c測定患者における平均HbA1cは6.19±1.16%で、HbA1c測定患者の79.8%が7.0%未満に管理されていた。グリコアルブミン測定患者における平均グリコアルブミンは21.20±5.34%で、グリコアルブミン測定患者の47.1%が20%未満、76.8%が24%未満に管理されていた。

経口血糖降下薬の大半が維持透析患者には禁忌であったため、これまで維持透析患者の血糖管理にはインスリン注射が基本とされてきた。2013年末維持透析を受けている患者の血糖降下薬としては、糖尿病既往あり患者の33.0%にインスリンが使用されていた。さらに透析患者にも使用可能な経口血糖降下薬として、DPP4阻害薬が27.6%の患者に使用され、αグルコシダーゼ阻害薬を中心とするその他の経口治療薬が21.1%の患者に使用されていた。